

※文字の大きさは MSゴシック /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、適宜文章中に挿入してください。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー名: 教諭 北條 奈緒美 教諭 柴田 優太	
学校名: 茨城県立下妻第二高等学校	
活動名: 下妻市と連携！シチズンシップ教育 生徒と社会をつなぐ探究活動の授業デザイン	
解決すべき課題: 本校生徒の特性として、意外と深く考えているが「自分なんて」という思いから「発信はしたくない」という姿勢の者が多い。「どこか他人事、受け身」という見られ方をされてしまう。 ⇒ 自分たちの声や行動によって、社会を動かす可能性があるという意識を持たせたい。そのような思いから、地域のことを考え、外へ発信する機会を生徒に提供したいと考えて企画した。 ・本校のスクールポリシーの1つである「グローバル(global+local)」に基づき、社会問題や地域の課題を広い視野で捉え、他者と協同して解決策を見出していく力を身につけさせたい。 ・将来的に地域で活躍し、地方創生や地域活性化に携わるリーダー性を備えた生徒を育成したい。	
目標・方針: 1. 下妻市と協働した取り組みを通し、探究学習をベースに段階的かつ横断的な多方向からのアプローチで、「 社会とつながる 」ことへの 生徒の意識向上 を図る。 2. 『しもつま未来ビジョン』(下妻市の現状を踏まえ、市の将来を見据えて考案するまちづくり探究活動)を通し、自分たちは将来、「 社会の担い手・創り手 」であるという 当事者意識 を育てる。 3. 生徒が 本気 で考えた企画・政策を下妻市へ提言し、市から 本気 のフィードバックをいただく形式をとることで考案した企画をより具現化に近づかせ、 生徒の「学びの循環」 を促す。 4. 学年の教員陣は完全ファシリテーターに徹し、生徒の探究活動を支えていく役割を担っていく。また、下妻市後援で探究活動を進め、市に生徒及び教師のアドバイザーになっていただく。	
活動内容: 令和3年度に第3学年において、まちづくり探究を実施した際の課題は次の2点。 ① 柔軟な課題設定の在り方 ② 情報処理能力向上の必要性 今年度はぜひ改善したい! 生徒が身を置く環境から得られる情報と下妻市の現況との間に乖離が生じ、現実味のない課題設定やターゲットを若年層に限定した企画考案が目立った(実際、初期にはかなり多くのグループが「SNS 映えするカフェの建設」と立案)。生徒も「先生、私たちが考えるとこれが限界です…」と吐露。教員が軌道修正のサポートに入って対応。この形態でも悪くはないのだが… →今年度は、生徒が適切に情報を収集し、ピュアな発想が企画に直結するようにしてあげたい! 市担当者 と 打ち合わせを重ね、段階的・横断的な事前学習を連携・系統づけて計画することに。 【令和4年度実施活動(実施予定含む)】※第1学年 総合的な探究の時間において	
事前学習	1. 下妻市議会傍聴 ・各クラス代表者が、市議会議員の質問や各担当者からの答弁を傍聴し、内容をクラスへ還元。
	2. 模擬市長選挙 ・架空の市「ちゅんまに市」の市長選挙を生徒が体験。(※「ちゅんまに」は本校図書室のイメージキャラクター) ・各候補者は推進事業を掲げ、動画にて有権者である生徒へ公約宣言。 生徒は投票、翌朝には開票速報掲示。
活動内容	
位置づけ・各活動との関連性	
1. 下妻市議会傍聴 ・生徒が、市の活性化の在り方を考えるきっかけに。 ・市議会議員は市民の代表者であるので、傍聴すると分野ごとの内容の吟味が可能。	社会との対話
2. 模擬市長選挙 ・次期市長立候補者を当該学年教員とALT、満期任了で退任する市長役を校長が熱演。 ・主権者教育の一環。 選挙体験を通して、社会に参画することの意義を生徒自ら考える機会に。	

まちづくり探究活動『しもつま未来ビジョン』	活動内容	位置づけ・各活動との関連性
	3. イントロダクション ・まちづくり探究の進め方について、政治特番を模した教員手作り動画を視聴	行政との対話①
	4. 下妻市紹介講座 ※下妻市職員 ・「市の現況・課題・推進事業等」	
	5. 市長とのパネルディスカッション ・「生徒×下妻市長」	生徒間の対話
	6. まちづくり探究スタート (1) 課題の洗い出し、情報収集、整理・分析、企画立案・まとめ 生徒が“aha moment”を連発! ⇒ 学ぶ喜び (2) プレゼンテーション準備(スライド・原稿作成、役割分担、リハーサル)	
	7. プレゼンテーション (1) クラス発表: 代表選抜を兼ね、投票。 (2) 全体発表: 代表グループは、下妻市関係者へ、 本気のプレゼン 。	行政との対話②
	8. リフレクション ※講評及び審査 ・コメンテーターは、市長・市職員・市議会・PTA 役員などを予定	
	主体的・継続的な探究活動を可能にする環境を整備。⇒生徒の「学びの循環」を促進	
取組の過程: ① 下妻市との連携の強化 ② 生徒がサステナブルに学んでいく仕組みづくり 上記2つを重点とした。まず、市との連携強化を図るために探究活動のねらいや目標を下妻市と共有し、綿密な打ち合わせを何度も実施。 シチズンシップに基づく学び がより一層期待できる体制を整えた。さらに生徒にとっては、行政との意見交換や直接評価が得られるというチャンス自体に価値があり、一連の経験を通じ、 学びに向かう主体性 が大いに高まったと言える。 また、各クラスが同時進行で円滑に活動が進められるよう指示系統を1つに絞り、全体の進捗は探究担当者が掌握。各クラスの担当教員がファシリテーターに徹することで、生徒への細やかな声かけが可能となった。前年度の取り組みをブラッシュアップしたことで、生徒が「まち」や「社会」をより多角的に捉えることができ、社会参画の一助となる位置づけになっている。		
活動の成果: 「生徒と社会のつながり」というねらいを市と共有したことで、各活動の位置づけが明確になり、より系統立てた探究活動が実現した。生徒・教員・地域が同じテーマを通して共に学んでいこうとする形態が、探究を通して「 共創・協創の価値 を生んだと感じている。常に社会にベクトルを向けて思考を巡らせ、多様な問いに対峙して自分たちなりの最適解を導き出そうと奔走する生徒の姿勢は我々大人たちを確実に鼓舞し、社会全体における「協働の在り方」そのものを大いに考えさせた。ゆえに生徒を通じ、 教員がその「未来の社会の担い手」を育てる・共に学ぶ役割を担っているというオーナーシップ をも見つけ直す機会となったことは貴重な成果である。探究活動を通して生徒に育まれた柔軟なデザイン思考や社会への発信力は、今後をたくましく生き抜いていく強みになると期待したい。今年度の市への提言発表会は1月に予定。さらに成長した生徒の声が聴けるのを楽しみに、今後も生徒に伴走していく。		
地域や社会のために考えたり実践したりしていることはありますか?(回答者 256 人) 9月 → 11月~ 34%(87人) 100% ※事実上		